

第2期地域アクションプラン総括シート (物部川地域)

「数値目標等に対する客観的評価」の方法

- ・達成状況を客観的に評価できる目標について、以下により4段階評価を実施
(客観的に評価できない定性的な目標については、「-」としている)

区分	評価基準		件数
A+	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できたもの、または状況を改善できたもの	・数値目標を達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が100%以上 ・数値目標ではないが客観的に評価ができる目標を達成した(または達成する見込みがある)もの	26件
A		・数値目標をほぼ達成したもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%以上100%未満	6件
A-		・数値目標の達成に向けて十分な進展が見られなかったもの → 数値目標の達成率(または達成見込率)が60%未満	5件
B	第2期計画の取り組み開始時と比べて、数値を改善もしくは維持できなかったもの、または状況を改善できなかったもの		11件

【地域アクションプラン 総括シート】
《物部川地域》

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>1 南国市の園芸主幹品目シシトウの再構築</p> <p>《南国市》</p> <p>全国一のシシトウ産地維持のため、関係機関と協力の上、コスト削減や品質改善などに取り組み、生産・流通・販売上の課題を解決する。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA南国市 ・JA長岡 ・JA十市 	<p>＜生産上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各JAの部会において省エネ対策、土着天敵利用技術等の研修を実施（H24～27 延53回） <p>＜流通・販売上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3JA合同の消費宣伝活動（H24～27） ・出荷予測の実施（H24～27） ・消費地への生育情報の発信（H25～27） 	<p>＜生産上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修を重ねることにより、農家の省エネ機器に対する理解、土着天敵利用技術への理解が深まった。 ⇒各種補助事業を活用した省エネ機器の導入の促進（ヒートポンプ新規導入農家2戸、木質バイオマスボイラー新規導入農家6戸）（H24～27） ⇒タバコカスミカメ導入農家の増（65戸）（H24～27） <p>＜流通・販売上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏での消費宣伝活動（4回） ⇒市場のHPで紹介されるなど市場関係者からの評価は高かった。また、3JA合同で実施したことにより生産者のまとまりができてきた。
<p>2 還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化</p> <p>《南国市》</p> <p>還元水を活用した栽培技術を確認し、「還元野菜」としてのブランド化を図るとともに成分分析をし、機能性の検証を行う。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA南国市出資農業生産法人(株)南国スタイル ・(株)トリムエレクトリックマシナリー ・高知大学 	<p>＜「還元野菜」の生産・栽培技術の確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農受入体制整備事業（トータルサポート事業） H25：8,450千円（県4,225千円、市4,225千円） ・耕作放棄地再生利用交付金 H25：605千円（県230千円、国375千円） <p>＜還元野菜の販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こだわり青果市」出展（H25） ・「還元野菜」セットの販売（H26～27）（日本トリム顧客向け） <p>＜「還元野菜」の機能性の検証＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知大農学部で発芽試験の実施 ・農業技術センターで育苗試験の実施 <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こうちビジネスチャレンジ基金（トリム基金） H25：優秀賞受賞（支援金500万円獲得） ・5者による還元野菜プロジェクト推進のための連携協定締結（H27） 	<p>＜「還元野菜」の生産・栽培技術の確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力農家への整水器の設置により、生産体制が整いつつある。 ⇒H27：協力農家数3戸 <p>＜「還元野菜」の販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こだわり青果市」出展（H25）（ブース来訪者：東京25名、大阪24名） ・還元野菜セットの販売開始 ⇒販売数の増加 H26：230セット →H27：331セット <p>＜「還元野菜」の機能性の検証＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証栽培施設として新規ハウスを設置（H25） ・コマツナの試験栽培（H25） ⇒収穫調査により一部優位差が認められた。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
シシトウ販売額 10.8億円 (H23園芸年度： 10.4億円) ※販売額はJAへの 入金額	(H27園芸年度末実 績) 10.6億円	A-	平成23園芸年度の単価安によりシシトウか らの品目転換が進み、また燃油価格の高騰の影 響により一部で促成栽培から雨よけ栽培への転 換があったため、出荷量が減少し目標値は達成 できなかった。省エネ対策、I P M技術の推進 を図った結果、省エネ機器の導入や土着天敵の 導入が進んだ。 <課題> ・販売額は維持できているが、出荷量が減少し ているため、増収対策や担い手の確保育成が必 要	・出荷量の維持・拡大のために、 環境制御技術等の導入による単収 の増加や新規就農者の受け入れ等 による担い手の確保育成を推進 ・消費地での消費宣伝活動
栽培技術のマニユ アル化ができた品目数 10品目 (H25：0品目)	(H27年度末実績) 0品目	B	高知大学での試験栽培では、特定の品目で優 位差のあるデータが得られた。 また、南国スタイルに設置した実証栽培施設 において、還元野菜の生産体制の構築や機能性 の検証が進展している。 <課題> ・栽培技術マニュアルの作成に向けた「還元野 菜」の定義付け ・南国スタイルの生産体制の強化 ・機能性に基づく差別化の推進	・関係者協議（南国スタイル、ト リム等）による「還元野菜」の定 義付け ・県及び市の支援を受けて南国ス タイルの生産体制を整備、その 後、実証試験の取り組み及び協力 農家の募集を実施
「還元野菜」の販売 先数 3箇所 (H25：1箇所)	(H27年度末実績) 1箇所	A-		
機能性に基づく差別 化ができた品目数 3品目 (H25：0品目)	(H27年度末実績) 0品目	B		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>3 エメラルドメロンの販売力向上対策</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市夜須町のJA土佐香美園芸部メロン部会夜須支部部会員が生産するエメラルドメロンは平成19年には「夜須のエメラルドメロン」として商標登録を行うなど、独自のブランド化に取り組んできた。</p> <p>平成21年度から23年度には、県産業振興推進総合支援事業を活用し、生産面において新技術の導入(日射比例かん水制御システム)、販売面では、それまでの県内や関西圏を中心とした販売から関東圏での販売拡大を目指して、新たな販売戦略の構築に努めてきた。</p> <p>過去3カ年間の取組をもとにさらなる生産拡大、関東圏での販売量拡大・知名度向上と合わせて全消費地でのブランド化に取り組む。</p> <p>＜事業主体＞ ・JA土佐香美</p>	<p>＜生産性強化の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 炭酸ガス施用農家への施用実態聞き取り調査 (H25～27：11戸) 栽培管理方法の現地検討会等の開催 (H27：6回、H26：7回、H25：5回、H24：6回) 難防除病害虫被害軽減対策のための実証ほ設置 (H24～27)、勉強会の開催 (H27：3回、H26：5回、H25：2回)、接木農家数 (H27：6戸、H26：1戸) 防除マニュアルの作成及び全戸配布 (H26)、マニュアル改訂(H27) <p>＜知名度・販売力の向上対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 県外市場(大阪、名古屋、岐阜、東京)での訪問商談会の開催 (H26：3日間) 県外市場(東京、名古屋、大阪、徳島等)バイヤーを招いての商談会の開催 (H27：4回、H26：8回、H25：10回) 県外市場関係者の招へい (H24：2回) 量販店(東京、神奈川、愛知、兵庫、徳島、県内等)での試食宣伝 (H27：5回、H26：7回、H25：14回、H24：6回) 	<p>＜生産性強化の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 炭酸ガス施用の栽培方法が普及し、難防除害虫軽減対策が理解された ⇒炭酸ガス発生装置導入農家数 H24：6戸/16戸(38%) →H27：12戸/15戸(80%) 炭酸ガス発生装置新規導入台数 H25：4台、H26：14台、H27：5台 ⇒天敵導入農家数 H24：0戸→H27：15戸(100%) ・生産者間で効果的な栽培管理方法が情報共有されるなどして、品質向上につながった ⇒低温期(1～2月)大玉化率(6玉入り9kg以上のケース割合) H24：66%→H26：76% →H27：77% ⇒高温期(7月)の品質向上A品率 H23：49.5%→H26：61.1%、 →H27：54.3% <p>＜知名度・販売力の向上対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイヤーとの商談会や県内外での販促活動の実施 ⇒関東での販売量は減っておらず、高品質で店持ち(可食期間)が長いとの評価で、市場からは安定供給の要望がある。 ・部会が日本農業賞(集団組織の部)の優秀賞を受賞
<p>4 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」</p> <p>《香南市、香美市》</p> <p>JA土佐香美は日本一のニラ産地であるが、近年は、個々の農家の規模拡大が進む一方で、高齢化により部会員数は減少している。こうした状況の中で、農業所得の向上や産地の維持・拡大を図るため、産地でまとまりをもって、環境保全型農業技術や新技術の導入に取り組むとともに、担い手対策や既存農家の規模拡大支援など、産地力の向上に向けた取組を総合的に進める。</p> <p>また、食の安全・安心への取組とあわせて、「人と環境に優しいニラ産地」としての土佐香美ブランドを構築し、市場での有利販売に取り組む。</p> <p>＜事業主体＞ ・JA土佐香美</p>	<p>＜生産上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 作型改善個別指導 (H26：16回) 電照栽培や炭酸ガス施用効果検証のための調査 (H25～27) 品種比較実証ほの品質・収量調査 (H24～27) 調整作業機の視察・実演会及び処理能力調査の実施 (H25～27) 栽培管理や品質向上のための講習会や現地検討会及び異物混入対策の目慣らし会の開催 (H27：34回、H26：26回、H25：46回、H24：31回) 規模拡大や縮小など生産者意向調査の実施 (H26：回答223戸/224戸) 新たな産地目標のための具体策の検討 (H26～27) <p>＜流通・販売上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> イベント等での産地の取組の紹介及び試食宣伝等の販促活動の実施 (H24～27) 小袋包装へ「高知家」ロゴマークを入れる取組の推進 (H26) 	<p>＜生産上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 作型改善や電照・炭酸ガス施用等による冬季収量の増加 ⇒H24に比べて、H27に冬期収量が増加した農家の割合 75% (18戸/24戸) ⇒炭酸ガス施用機の導入農家数 H24：3戸→H27：9戸 ⇒電照栽培導入農家数 H24：7戸→H27：15戸 調整作業機の導入による作業労力の軽減 ⇒調整作業機の導入 H27：13台(延べ) 新規就農者等の育成・確保対策に継続的に取り組んだことにより新規栽培者が増加した(内数=新規就農者数) ⇒H24：9名(2)、H25：6名(3)、 H26：7名(7)、H27：7名(7) 新たな産地目標、「10年後の目標：販売額40億円」を役員会で決定 <p>＜流通・販売上の対策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 「高知家」ロゴマーク入りニラの出荷が開始 (H26) したことやさまざまな販促活動により、日本一のニラ産地としての知名度が向上した

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
エメラルドメロン販 売額 4.8億円 (H23園芸年度： 4.4億円) ※販売額はJAへの 入金額	(H27園芸年度末実 績) 4.5億円	A-	<p>現地検討会や講習会などでの情報共有によ り、生産者の技術レベルが向上した。栽培戸数 や面積は減少したものの、販売促進活動による 知名度の向上により、単価は上昇し、販売金額 の増加につながった。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難防除病害虫被害の軽減 ・ 低温期収量増の徹底 ・ 燃料費等の経費の節減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 難防除病害虫に対するIPM技術 等防除対策のさらなる強化 ・ 低温期のさらなる品質・収量向 上のための炭酸ガス施用等環境制 御技術の向上 ・ 燃料費等生産コストの削減
ニラ販売額 30.0億円 (H23園芸年度： 28.4億円) ※販売額はJAへの 入金額	(H27園芸年度末実 績) 27.1億円	B	<p>販売額40億円を目標とした産地ビジョンの 策定により、産地強化に向けた機運が高まっ た。新規就農者の育成のための指導農業士の確 保やグリーンカレッジ（新規就農者を対象とし た講習会）を開催する等、バックアップ体制が 強化された。施肥改善によるコスト低減や電照 栽培及び炭酸ガス施用による増収効果を検証し た結果、技術導入が始まった。</p> <p>生産規模別農家の経営調査結果の提示による 規模拡大への誘導、他品目からの転換により、 園芸用ハウス整備事業などの補助事業を活用 し、面積を拡大してきたが、H25年度以降は、 突風や台風による被害及び高齢化による雑農に より総栽培面積が減少し、また春先の出荷量が 多く、厳寒期や夏期の出荷が十分に伸びていな いため、販売額は減少した。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者の高齢化 ・ 規模拡大への取組 ・ 新規就農者の受け入れ体制の強化 ・ 調整作業労力の確保と軽減 ・ 商品への異物混入や腐敗事故対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産地ビジョン具体化と推進 ・ 調整作業の機械化と雇用が確保 できる仕組みづくり ・ 作型改善と厳寒期や夏期の増 収・品質向上による周年安定生産 ・ ハウスの耐候性向上と露地栽培 の施設化 ・ 担い手を育成する仕組みづくり ・ 生産履歴やGAP手法を取り入 れての異物混入や腐敗等市場事故 対策の徹底

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>5 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策</p> <p>＜香美市＞ 香美市物部町を中心としたユズは、国内最大の青果出荷（玉出し）産地であるが、生産者の高齢化などから生産の維持が困難になっている。 このため、出荷作業時の労力軽減、農作業受委託の仕組みづくり、新たな担い手の掘り起こしを通じて作業者を確保し、産地の維持発展を図る。 また、新たな需要を掘り起こし、選果場の機能を強化して販路を拡大する。</p> <p>＜事業主体＞ ・香美市 ・JA土佐香美</p>	<p>＜外部労力を活用した「ゆずもり」の体制強化＞ ・高齢化するユズ農家の労働負担軽減策として整備（H22）した作業受託組織「ゆずもり」の事務局をJAに置き、料金を見直し、青壮年部等をサブメンバーとして新体制を設立（H24）</p> <p>＜機械で選果された新規格の商品化＞ ・H25：小袋包装機の導入 こうち農業確立総合支援事業費補助金：11,266千円 （県）5,633千円（市）5,633千円 ・「ものべゆず女性倶楽部」が発足（H24）し、一般消費者向けにユズの食べ方を紹介するなどユズの販促活動を開始</p> <p>＜知名度向上と後継者確保＞ ・全生産者を対象としたアンケート調査の実施 ・青玉、カラーリング、黄玉、冬至、貯蔵をリレー出荷し、防除作業を省力化する経営モデル（1.5ha規模）の作成</p> <p>＜その他＞ ・産地協議会（部会3役、関係機関）の定時開催（H24～） ・産地の将来像を「産地構造改革計画」の策定 ・圃場整備（H24） こうち農業確立総合支援事業費補助金：1,208千円 （県）604千円（市）604千円 ・スピードスプレヤーの導入（H26） こうち農業確立総合支援事業費補助金：4,304千円 （県）2,152千円（市）2,152千円</p>	<p>＜外部労力を活用した「ゆずもり」の体制強化＞ ・「ゆずもり」の利用実績1件（H24、病気の部員を助けるため、他の部員（3名）が防除作業（70a）を受託）</p> <p>＜機械で選果された新規格の商品化＞ ・透明小袋（一般消費者向け商品）の生産体制の整備による新たな販路開拓 ⇒透明小袋の生産量 371,094玉（H26） →518,790玉（H27）</p> <p>＜知名度向上と後継者確保＞ ・アンケート結果から、生産者の高齢化や木の樹齢が高くなったことにより、生産が不安定になっていることが判明 ⇒部会が青果産地として100haの園地（現状145ha）の維持を合意し、若手生産者にとっては大規模経営に向けた足掛かりとなった</p> <p>＜その他＞ ・日本一の青果産地維持のため、部会として機械化を見据えた園地の整備など、取り組むべき方向性が明確になった ・せま地直しやスピードスプレヤーの導入 ⇒防除作業が省力化された</p>
<p>6 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大</p> <p>＜南国市＞ 国道195号通称「あけぼの街道」の全線開通を好機ととらえ、直販所・加工所を本線沿いに移転拡充して地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売を行い、地域農業者の所得向上を図るとともに、隣接する「ながおか温泉」への誘客を促進し、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>＜事業主体＞ ・JA長岡 ・櫛なの工房</p>	<p>＜直売所及び加工場の移転拡充＞ ・県産振補助金 H25：72,040千円 （県50,000千円、市22,040千円） ・農業創造セミナーへの参加（H24）</p> <p>＜情報発信による集客の取組＞ ・長岡温泉や西島園芸団地と連携したイベント（あけぼの街道ひまわりフェスタ）の開催（H26～）</p>	<p>＜直売所及び加工場の移転拡充＞ ・「株式会社なの工房」設立（H25.11月） ・「なの市・なのカフェ」オープン（H26.4月） ⇒売上額の増加 H22：33,000千円 →H27：163,013千円 ⇒雇用の増加 H22：3人 →H27：34人</p>

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
ユズ販売額 5億円 (H23園芸年度： 4.3億円)	(H27園芸年度末実 績) 5.2億円	A+	<p>産地協議会、3役会、委員会の役割分担が明確化され、部会が主体的に課題解決に取り組む体制が整った。</p> <p>これまで業務用のみであった販路が、H25の小袋包装機の導入により、一般消費者向けの新たな販路開拓につながり、物部のユズをより広く知ってもらう機会も増えた。</p> <p>また、耕作放棄地をユズ園に造成した圃場整備や防除作業を省力化するスピードスプレヤーの導入により、若手生産者が大規模経営を進めるための足掛かりができた。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防除作業や収穫作業が効率的に行える圃場の整備 ・生産者の高齢化と後継者不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の確保に向けて指導農業者を増やし、産地提案書を作成して給付金等が受給できる体制の整備 ・高齢化で放棄される優良園地の情報収集により、担い手に経営継承できる仕組みづくり ・高齢化により集落維持が困難な地域に対するユズ園の団地化を推進 ・スピードスプレヤーが運行でき、収穫作業の省力化につながる圃場整備と改種・新植の推進 ・条件が悪い園地の廃園の仕方を検討し、放棄園を出さない仕組みづくり ・高齢者がユズ栽培を少しでも長く継続できるようにするため、粗選果作業の軽減策を検討
直販所等の売上額 100,000千円 (H22：33,000千 円)	(H27年度末実績) 163,013千円	A+	<p>移転拡充によるフロア面積の拡大や新規のカフェ部門の立ち上げにより売上は増加している。運営のためのスタッフの雇用も発生し、売上と雇用者数が共に目標値を上回る数字となっており農家所得の向上に繋がっている。</p> <p>一方で、経費も同様に増加しており、売上額の伸びが利益に貢献していない状況が続いていたが、商品メニューの見直しを進めるとともに経費の削減に取り組んでおり、改善されつつある。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利益の出る体制づくり ・ながおか温泉への誘客促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き経費の削減及び適切なキャッシュフローの管理による利益の出る体制づくり ・共催イベント開催等、ながおか温泉との連携強化による交流人口の拡大
直販所等の雇用者数 8人 (H22：3人)	(H27年度末実績) 34人	A+		
ながおか温泉入場者 数 19万人 (H22：16万人)	(H27年度末実績) 16.2万人	A-		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>7 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充</p> <p>《南国市》</p> <p>農産物の価格低迷と資材等の高騰により大幅に減少している農家所得の向上のため、直販所を移転改装するとともに機能拡充を図り、地元農産物を活用した商品の販売と顧客獲得に取り組む。</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA十市 	<p>＜直販所の移転・拡充整備、販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直販所整備 <ul style="list-style-type: none"> 県産振補助金 H24：15,734千円 (県12,587千円、市3,147千円) ・加工品開発 <ul style="list-style-type: none"> 南国市中小企業振興事業費補助金 (地域特産品等開発事業) H26：市150千円(ラベルデザイン) ・経営改善 <ul style="list-style-type: none"> 農林水産物直販所支援事業アドバイザー派遣 H24：2回 H25：1回 ・新規出店者募集 	<p>＜直販所の移転・拡充整備、販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ことおち市」としてオープン(H25.3月) ⇒売上額の増加 H22：4,325千円 →H27：39,241千円 ⇒来客数の増加 H25(3月～12月)：27,066名 H26：38,851名 H27：50,955名 ⇒雇用の創出(H24～27) H27：9名(長期2名、短期7名) ⇒出店者数の増加 H22：11名 →H27：99名
<p>8 加工品販売による夜須地域の活性化</p> <p>《香南市》</p> <p>地場産物を活かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協同組合やすらぎ市 	<p>＜ソフト＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品生産販売計画検討(20回) ・店頭の商品PR方法の改善、検討(6回) ・新商品、主力商品の開発に向けた検討(21回) ・加工業者との新商品開発、検討(3回) ・パン、加工品等技術講習会(3回) ・HP等担当者との情報発信ツールとしての活用方法の研究、検討(6回) ・既存商品の改良検討・原価検証等(7回) <p>＜ハード＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設の整備 H25：県産振補助金 4,613千円 	<p>＜ソフト＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設が整い技術者も養成され、加工品の生産体制が整った。 ・ゴロゴロメロンパンなど加工品の販売が始まった。 ・地元加工業者と連携した新たな加工品の販売が開始された(ジュレ3品)。 ⇒加工品販売額の増加 H22：7,000万円→H27：9,559万円 ⇒雇用の創出(H24～27) 5名(長期5名)

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
直販所の営業日数 週6日 (H22：週2日)	(H27年度末実績) 週7日	A+	<p>移転拡充により、フロア面積の拡大や品揃えの充実、営業日の増加など直販所としての機能強化が進んだ。来客数も増加しており、売上額はH27目標値に対して下回るものの、毎年順調に増加している。</p> <p>出店者数はH27目標値をほぼ達成しているが、常時出店があるのは登録数のうち3割程度であり、農家の所得向上という面では一定の効果に留まっている。</p> <p>その他、集客イベントや地域農産物を使った商品開発など、魅力ある店づくりにも取り組んでいる。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時の出店者の増加 ・競合店との差別化 ・店舗運営体制の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・出店者との連携強化による販売意欲の向上 ・オリジナル商品の開発 ・経費の見直し及びJA十市との連携強化による経営の安定化
直販所への出店者数 100名 (H22：11名)	(H27年度末実績) 99名	A		
直販所売上額 50,000千円 (H22：4,325千円)	(H27年度末実績) 39,241千円	A		
直販所スタッフ雇用 3名 (新規)	(H27年度末実績) 9名	A+		
加工品販売額 10,000万円 (H22：7,000万円)	(H27年度末実績) 9,559万円	A	<p>加工施設の整備やSNSを活用したタイムリーな情報発信などハード、ソフト両面の取組により、H27年度販売額は目標値の96%を達成した。</p> <p>また、加工施設では5名が雇用（H24～27）されるなど、雇用の創出にも寄与している。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズに加え原価率も考慮した既存商品の改善と新たな商品開発などさらなる販売額向上対策と収益性改善の取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンの主力商品の強化とその他加工品のブラッシュアップ及び新商品開発 ・さらなる販売額の増加等による経営の安定化

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>9 地産地消・食育の推進</p> <p>《南国市》</p> <p>これまで先進的な地産地消の活動を行ってきたが、学校給食への野菜の供給割合は10%台であり、これからも農業生産法人の作る重量野菜の季節的利用、南国産野菜の生産情報の提供など地産地消の推進のため、組織の連携強化等を図っていく。あわせて、病院や介護施設など業務筋への販売、配送拡大に努める。</p> <p>また、生産者と消費者をつなぐ場づくりとしてオープンした「農家レストランまほろば畑」についても、経営の安定化を図り、地産地消を推進していく。</p> <p>さらに、地域食材を活用した料理や商品の開発及び販売を進めるためにベーカリーを併設した農園レストランを整備・運営することにより、地域の農業所得の向上と雇用の創出を図る。</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA南国市出資農業生産法人(株)南国スタイル ・JA南国市、JA長岡、JA十市 ・南国市地産地消推進協議会 ・農家レストランまほろば畑 ・南国市 ・(株)ナイフアンドフォークカンパニー 	<p>《(株)南国スタイル》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金 H24～26：2名 ・南国市JA出資型農業生産法人育成補助金 H24～27：市5,000千円 ・南国市地産地消推進補助金 H27：市5,000千円 <p>《農家レストランまほろば畑》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開店日数 H24：41回 H25：40回 H26：38回 H27：37回 <p>《(株)ナイフアンドフォークカンパニー》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農園レストランの整備 県産振補助金 H26：75,000千円 (県50,000千円、市25,000千円) 	<p>《(株)南国スタイル》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食への供給体制の構築（毎年） ⇒供給割合 H27：26.35% ・業務筋への供給体制の構築（毎年） ⇒安定的な供給先 H27：計24事業体 <p>《農家レストランまほろば畑》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のべ来店者数 41,043人（H24～27） <p>《(株)ナイフアンドフォークカンパニー》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消型農園レストラン・ベーカリー「トリトン」のオープン（H27.10月） ⇒雇用の創出（H28.3月末現在）：36名（うち長期21名、短期15名）
<p>10 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組</p> <p>《南国市》</p> <p>大河ドラマ「龍馬伝」を契機に再燃する龍馬ブームを好機と捉え、豊富な園芸野菜を使った「ご当地グルメ」として、龍馬に関する逸話や先塲の地等の歴史的背景を活用した「シャモ鍋」を新たに創出し、「地産「来」消」による交流人口拡大を図るとともに効果的なメディア露出などによる情報発信を強化する。</p> <p>また、シャモの飼育・ブランド化を通じて休耕田等を活用した飼料米栽培、さらには葉物野菜の出荷残渣の飼料化や鶏糞の土壌還元等の可能性を検討し、新たな農業手法を検討する。</p> <p>流通の少ないシャモ肉は少数生産であっても高級食材として取引されるため、飼育環境のトレーサビリティ等による高付加価値化を図り、「ブランド鶏肉」としての外商戦略を展開していく。</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業組合ごめんシャモ研究会 ・南国市商工会 ・南国市 	<p>《加工品への取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品開発（H24：シャモ鍋セット、H25：シャモスキヤキセット、H27：軍鶏ツケ） <p>《高級食材としての外商戦略づくり》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドイメージ形成のため、シャモ肉提供店舗を「シャモ鍋社中」としてプロモーション。 ・県外商談会に出展 <p>《組織の強化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費補助 産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金 H24～26：1名 シャモを突破口とする中心市街地賑わい創出事業（市単） H27：1名 ・生産体制の強化 県産振補助金（孵卵器・貯卵器） H25：4,021千円 (県2,681千円、市1,340千円) ごめんケンカシャモ飼育施設等整備事業費補助金（直営鶏舎） H27：市1,980千円 	<p>《加工品への取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品を開発し、商談会、ネット販売、ふるさと納税等のツールを活用して販売（H24～27） ⇒売上額の増加 H23：8,210千円 →H27：39,258千円 <p>《組織の強化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局として専任の職員を雇用し、経営体制の強化充実を図ることができた。 ⇒雇用の創出（H24～27）1名（長期1名） ・直営のシャモ料理専門店「軍鶏伝」のオープン（H27.11月） ⇒雇用の創出（H27～）6名（うち長期2名、短期4名）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
学校給食における地 元野菜供給割合 15% (H22：10.7%) 金額ベース	(H27年度末実績) 26.35%	A+	<p>学校給食については、学校給食週間での地産地消費率100%給食を実施するなどにより、目標値を超えて順調に推移している。また、(株)南国スタイルによる業務筋への配送も目標値以上に増加しており地産地消の推進は十分に行われている状態である。</p> <p>農家レストランについては、1回の開催あたり平均200人程度の集客があり、安定的に集客が行えるようになってきている。</p> <p>(株)ナイフアンドフォークカンパニーの農園レストランについては、H27.10月にオープンし、売上・雇用ともに順調な営業がなされている。</p> <p><課題> <南国スタイル> ・配送車・人員等の配送力不足 <農家レストランまほろば畑> ・メンバーの高齢化 ・新規グループ、メンバーの確保</p>	<p>(株)南国スタイル ・配送人員を2名から3名に増員し、配送力を向上</p> <p>農家レストラン ・新グループの設立による運営体制の強化及び後継者の確保</p>
業務筋への供給 15事業体 (H22：6事業体)	(H27年度末実績) 24事業体	A+		
整備された施設数 (パーカリーを併設 した農園レストラ ン) 1施設	(H27年度末実績) 1施設	A+		
ごめんケンカシャモ 提供店舗数(南国市 内) 18店舗 (H23：15店舗)	(H27年度末実績) 19店舗	A+	<p>加工品の開発及び県内外への情報発信により、売上額が大幅に増加し、ブランド鶏肉として認知されるようになった。提供店舗数もH27目標値を上回り、外商戦略など次の展開が期待できる。</p> <p>また、直営鶏舎の整備や高知農業高校との連携、飼育データの蓄積により、生産体制が強化されたことで、飼育羽数(加工羽数)もH27目標値を達成している。</p> <p><課題> ・さらなる生産体制の強化 ・県内外の大手企業との取引拡大に向け、食鳥処理工程を含む衛生管理の向上 ・組織の経営強化</p>	<p>・新たな加工品の開発、商談会出展等による販路拡大 ・衛生管理や経営面の強化に向けた講習会等への参加</p>
シャモ目標飼育羽数 3,000羽 (H23：2,000羽)	(H27年度末実績) 3,010羽	A+		
ごめんケンカシャモ を使った加工品数 3品 (H23：0)	(H27年度末実績) 3品	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>11 民有林における素材の増産</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>森林所有者の所得の向上と、山村地域の振興を図るため、引き続き集約化施業を推進し、森の工場の拡大と素材の増産に取り組む。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各森林組合 ・林業事業体等 	<p>＜森の工場の推進及び森林経営計画の策定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合、事業体、地元への説明会の開催 H24：4回 H25：3回 H26：4回 H27：1回 計：12回 <p>＜林業事業体の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械、作業道など基盤整備 高性能林業機械 H24：3台 H26：1台 H27：5台 計：9台 県補助金90,419千円 <p>作業道</p> <ul style="list-style-type: none"> H24：13,163m H25：12,859m H26：11,866m H27：9,621m 計：47,509m 県補助金201,627千円 <p>＜担い手の育成・確保＞</p> <p>(伐採、搬出技術を有する職員の育成)</p> <p>H24～27：OJTによる技術者養成 15人</p> <p>H24～26：ふるさと雇用5人</p> <p>＜境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> H24：97ha H25：371ha H26：301ha H27：218ha 計：987ha 県補助金58,521千円 <p>＜放置林の解消＞</p> <p>(保育間伐の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> H24：257ha H25：148ha H26：56ha H27：54ha 計：515ha 県補助金35,852千円 <p>※上記事業にかかる県補助金は、高性能林業機械等整備事業費補助金、森の工場活性化対策事業費補助金、原木増産推進事業費補助金、森林支援整備事業費補助金、森林整備加速化事業費補助金、造林事業費補助金森林整備加速化事業費補助金など多数。</p>	<p>＜森の工場の推進及び森林経営計画の策定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合、事業体、地元への説明会の開催 <p>により、各種補助制度等に理解を深めてもらうとともに協力体制が整った。</p> <p>⇒森の工場の整備（H24～27） 9,857ha</p> <p>＜林業事業体の育成、担い手の育成・確保、境界確認作業及び森林情報等のデータ整理と活用、放置林の解消＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高性能林業機械の導入や作業道などの基盤整備、伐採、搬出技術を有する職員の育成により素材生産量が増加した。 <p>⇒素材生産量</p> <ul style="list-style-type: none"> H22：26,053m³ →H27：40,167m³

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
「森の工場」整備済面積 19,000ha (H22： 9,400ha)	(H27年度末実績) 19,257ha	A+	<p>「森の工場」は、森林組合や事業者、地元への説明会の開催等により目標を達成することができた。</p> <p>また、素材生産量については、各種補助事業の効果により生産量が伸びたが、目標達成には至らなかった。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 作業道及び高性能林業機械等を活用した効率的な作業システムの構築 新たな担い手の育成・確保 	<ul style="list-style-type: none"> 高知おおとよ製材（H25）や土佐グリーンパワー（H27）の稼働による需要の増加に対応する、素材の安定供給 H27に開校した林業学校と連携した新たな担い手の育成・確保
素材生産量（民有林のみ） 47,500m ³ (H22：26,053 m ³)	(H27年度末実績) 40,167m ³	A		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>12 木質バイオマスの活用に向けての取組</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>需用者開発について、三市が連携して取り組んだ結果、一定の進展があった。今後は排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくりを行う。</p> <p>また、木質バイオマス燃料の安定供給の仕組みづくりについて検討する。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市 ・香南市 ・香美市 ・JA南国市 ・JA長岡 ・JA十市 ・JA土佐香美 	<p>＜排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4JA共同灰処理の検討 H26：県木質資源利用促進事業費補助金 298千円 ・国の事業を活用した木質バイオマスボイラーの導入 H25：県木質資源利用促進事業費補助金 30,908千円 H26：県木質資源利用促進事業費補助金 30,434千円 	<p>＜排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4JA共同灰処理の実施（H26） ⇒「木質バイオマス燃焼灰の自ら利用の手引き」を公表したことによる灰処理の実施（H26） ・園芸用ボイラー9基の導入 H25：JA南国市・JA十市・JA長岡 各1基 H26：JA十市・JA長岡 各3基
<p>13 シイラ等の加工商材活用</p> <p>《香南市》</p> <p>シイラ等の加工による浜値向上と付加価値増加を通じて、漁業者の所得向上を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県漁協手結支所 	<p>＜漁協の入札参加＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協職員等、関係者との協議及び情報共有（H26：4回） （H27：7回） <p>＜前処理加工の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な加工体制の構築 ・衛生管理に係る指導・助言（県版HACCP取得に向けた取組み）（随時） <p>＜新たな販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取引先との定期的な情報交換（1～2回/週） 	<p>＜漁協の入札参加＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協自らが入札に参加し、浜値の底支え（小型サイズを30円/kg以上で入札）を図った。 ⇒シイラ購入金額・量・平均単価 H22：573千円 29.4トン 19.5円/kg →H27：10,687千円 99.5トン 107.4円/kg <p>＜前処理加工の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パート雇用8名 ⇒高知県食品高度衛生管理手法認定を取得（H27年2月） <p>＜新たな販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、1～2件程度の新規取引先を獲得 ⇒売上高の増加 H22：2,571千円 →H27：21,286千円
<p>14 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～</p> <p>《南国市》</p> <p>特産品づくりについては、これまでも取組みを行い様々な特産品が開発されてきた。今後、一部の企業・団体でなく、特産品づくりに取り組む組織・グループを育成し、市全体に広めるとともに、プロダクトアウト型でなく、顧客ニーズも把握しながら、地域資源を活かした特産品づくりを促進する。また、できあがった特産品の売り込みを通じて地域をPRし、地域の魅力向上を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんこく空の駅推進協議会、西島園芸団地など既存企業・組織・グループ ・新しい組織・グループ ・JA南国市出資農業生産法人(株)南国スタイル ・南国市商工会 ・南国市観光協会 	<p>＜特産品づくりの振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品の開発 小規模事業者地域活力活用新事業 全国展開支援事業補助金（全国商工会連合会） H24：3,420千円 南国市中小企業振興事業費補助金（地域特産品等開発事業） H24～27：計19事業採択 	<p>＜特産品づくりの振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特産品等開発事業により、特産品づくりのプレーヤーの発掘が進んだ。 ⇒開発商品売上額の増加 H22：656万円（28品目） →H27：3,696万円（23品目）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
ペレット利用量 1,230 t (H23: 517 t) 排出量取引 1,500t-co2 (H23: -)	(H27年度末実績) 508 t (H27年度末実績) 0t-co2	B B	木質バイオマスボイラーの設置台数の増に伴い、ペレット使用量が増加し（H26年度ペレット使用料698 t、H27年度は暖冬のため減少）、課題となっていた木質バイオマス燃焼灰の利用についてもH26から可能となった。CO2排出量取引については、これまでボイラーの導入に自己負担が発生しなかった（～H26：補助率定額[10/10以内]）ことから実績はないが、H27年度以降は、補助率の変更により一部負担が生じることとなったため排出量取引の可能性が出てきた。 <課題> ・ 輸送のロスなく、地域でバイオマス燃料が供給できる燃料供給の基地づくり ・ 排出量取引を活用した負担軽減の仕組づくり	・ 導入した木質バイオマスボイラーの継続使用 (H28.3月 地域AP終了)
シイラ加工事業の販売金額 700万円 (H22: 2,571千円) 衛生管理の認証 県版HACCPの取得	(H27年度末実績) 2,129万円 (H27年度末実績) — (直近の実績) 高知県食品高度衛生管理手法認定の取得 (H27年2月)	A+ B	販路開拓は順調であり、年間1～2件程度の新規取引先を獲得している。それに伴って売上高も増加傾向にあり、H27年度末の実績は目標値を大きく上回った。 衛生管理は、高知県食品高度衛生管理手法認定を取得し、一定の成果を得た。 一方で、パート雇用者の高齢化もあって、生産体制に課題が残る。 <課題> ・ 加工従事者の高齢化への対応	・ 販路及び売上高は、現状の維持拡大 ・ 生産体制は、人員の強化や省力化のための設備投資等の事業環境の再整備を検討
地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数 10組織・団体 (新規) 開発商品売上額 1,000万円 (40品目) (H22: 656万円 (28品目))	(H27年度末実績) 6組織・団体 (H27年度末実績) 3,696万円 (23品目)	A A+	特産品づくりに取り組むグループが市の補助を受けて新たに6組織設立され、商品売上額はH27目標値を大きく上回っている。 また、南国市地域雇用創出推進協議会による各種セミナーの開催や試作品の開発により、6次産業化の意識醸成ができつつある。 <課題> ・ 顧客ニーズに沿った商品づくり及び既存商品のさらなる磨き上げ ・ 開発された商品の販路拡大や外商促進	・ アドバイザー制度等の活用による商品の磨き上げ ・ 商談会への出展による販路拡大

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>15 香美市ブランドの確立・特産品づくり</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市ブランドの確立、特産品づくりを行うことを通じて、働く場の確保と所得の向上を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市観光協会 ・食品加工グループ 	<p>＜地域ブランド商品の製造・流通・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市観光協会運営事業費補助金 H24 11,000千円 H25 11,000千円 H26 11,000千円 H27 11,000千円 ・情報発信交流施設指定管理料 H26 4,400千円 H27 4,400千円 ・イベント等への出店による特産品の販売及びPR H24 46回 H25 35回 H26 30回 H27 39回 ・土佐の食1グランプリへの出店（H24） ・県産振補助金（ステップアップ事業） H24 450千円（ゆず皮商品の開発等） ・産地視察型商談会に参加（H27） ・産振アドバイザー導入（H25） 1件・3回（パッケージデザイン） <p>＜新たな加工食品の開発・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業創造セミナーに参加 H25 1団体 H27 1団体 ・6次産業化支援チームによる支援 H27 2団体 <p>＜シカ肉の活用・販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シカ肉料理の提供・販売 別府森林総合利用施設指定管理料 H26 19,000千円 H27 19,000千円 	<p>＜地域ブランド商品の製造・流通・販売＞</p> <p>＜新たな加工食品の開発・販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外イベント等への出展による特産品のPR ・奥物部森の駅ブランドのすし酢を開発（H24） ・新商品（ゆず皮の佃煮、ピール）が完成（H24） <p>⇒特産品売上額の増加</p> <p>H22：4,808千円（10品目）</p> <p>→H26：9,854千円（18品目）</p> <p>→H27：14,217千円（18品目）</p> <p>＜シカ肉の活用・販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐の食1グランプリ 4位入賞（H24） ・全国ジビエサミット（長野県）に参加（H25） <p>⇒シカ肉加工品を広く一般に周知できた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通販サイト「四国産直市場」にて鹿肉ローストの取扱開始（H24～27）
<p>16 「ごめん」の賑わいづくり～ごめんの活性化～</p> <p>《南国市》</p> <p>かつては南国市の中核的存在であった「ごめん商店街」に再び賑わいを取り戻せるよう取組を行っていく。地元店主の大半が高齢化し、後継者がいないために主体的な取組が生まれにくい状況だが、これまでの取組の中でできたやなせたかしロードや高知農業高校のアンテナショップ、ごめんの軽トラ市などを活かし、地元の意識醸成を図りつつ、賑わい拠点の創出や運営管理できる組織づくりにより、まず人が訪れる仕組みづくりを図っていく。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市商工会 ・南国市商工会後免支部 ・ごめんまちづくり委員会 ・企業組合ごめんシャモ研究会 ・ごめん生姜アメ研究会 ・地産池消ごめんの軽トラ市実行委員会 ・後免町公民館建設推進部会 ・高知農業高校 	<p>＜賑わい創出のための拠点施設整備、空き店舗の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後免町商店街活性化事業 H26：市1,040千円 H27：市1,035千円 <p>＜中核的な地域資源の活用と情報発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ごめん・よってご広場」に企画運営員と集落支援員を配置し、地域を巻き込んで実際に活動できる組織として「ごめん町イベント実行委員会」が組織された。（H26） ・商店街活性化に向けて、事業の企画立案、実行に移す組織として「南国市中心市街地活性化推進協議会」を設立した。（H27） 	<p>＜賑わい創出のための拠点施設整備、空き店舗の活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係団体と連携して「ごめん町イベント実行委員会」が各種イベントを企画開催し、商店街の賑わいを創出した。 <p>⇒（H26）</p> <p>ごめんの月見 入込客数 280人</p> <p>骨コツフェスタ 入込客数 130人</p> <p>キャンドルライブ 入込客数 80人（H27）</p> <p>ごめんDEキャロウィン（キャンドル＆ハロウィン） 入込客数 650人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他イベントの開催 「ごめんの軽トラ市」（毎年） 「ハガキでごめんなさいコンクール」（毎年） ・後免防災コミュニティセンターの完成（H27） ・南国市中心市街地活性化推進協議会ワーキンググループによる「ごめんまち将来像プラン」の策定（H27）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
開発商品売上額 6,300千円（20品 目） （H22：4,808千円 （10品目））	（H27年度末実績） 14,217千円（18品 目）	A+	<p>香美市のユズやシカ肉を活用した加工品の開 発に取り組み、県内の販路については、緩やか ながら順調に拡大し、売上額も増加している。 開発商品売上額については、品目数の増加に 伴い年々増加傾向である。特にH27年度は商談 会への参加に伴う販路の拡大及びイベントへの 出店により販売額が増加し、H27年度末実績は 目標値を大きく上回った。</p> <p><課題> ・各団体メンバーの高齢化に伴う担い手の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じた機器類の整備への支援 ・ニーズをふまえた商品開発及び既存商品のマイナーチェンジ ・県の主催する商談会等への参加促進による販路拡大
<p>賑わい創出のための 拠点施設整備 1件 （H23：0件）</p> <p>空き店舗活用 2件 （H23：0件）</p> <p>地元・地域を巻き込 んだ実際に活動でき る組織の設立 1組織 （H23：0組織）</p> <p>ごめん商店街の歩行 者通行量 ばいきまん前20人 /H、ジャムおじさん 前40人/H （H23：ばいきま ん前12人/H、ジャ ムおじさん前23人 /H）</p>	<p>（H27年度末実績） 1件</p> <p>（H27年度末実績） 2件</p> <p>（H27年度末実績） 1組織</p> <p>（H27年度末実績） ばいきまん前21人 /H、ジャムおじさ ん前21.9人/H</p>	<p>A+</p> <p>A+</p> <p>A+</p> <p>B</p>	<p>「ごめんの軽トラ市」も定着し、イベント時 には安定的に集客が行われている。賑わい創出 のための拠点施設となる「後免防災コミュニ ティセンター」も完成し、ごめん町イベント実 行員会による各種イベントや、定期的な農業高 校のアンテナショップの開催などもあって、少 しずつ地域に賑わいが戻っている。</p> <p>また、「ごめんまち将来像プラン」の策定によ り、ものづくり、ひとづくり、まちづくりをコ ンセプトとする「ものづくりサポートセンター （仮称）」の建設に向けて、海洋堂他周辺施設 と連携した取り組みを行っていく気運が高まり つつある。</p> <p><課題> ・南国市の「ものづくりサポートセンター（仮 称）」建設に向け、スケジュールや関係者の役 割の明確化 ・「ごめんまち将来像プラン」の実行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ものづくりサポートセン ター」（仮称）建設に向けたスケ ジュールの合意（海洋堂、南国 市、県） ・南国市と海洋堂の進出基本協定の締結 ・「ごめんまち将来像プラン」に 関しては、南国市中心市街地活性化 推進協議会ワーキングにおいて、個々の取組ごとにプレイヤー を決め、実行

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>17 香南市の地場産品販売促進</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の地場産品を事業者が一体となり販売活動を行い売り出すことで、香南市の知名度の向上や地域の農業者、事業者等の所得の向上を図る。</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光協会 ・香南市内の事業者 	<p>《地場産品の開発と販売促進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品カタログ販売（H24～27） ・商品ネット販売（H24～27） ・体制の充実強化 <ul style="list-style-type: none"> ・県産振ふるさと雇用事業費補助金 H24～26：2名雇用 ・めざせ弥太郎！商人塾参加（H24） 	<p>《地場産品の開発と販売促進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐香南まるごと旨みカタログの発行回数が増 <ul style="list-style-type: none"> （H25～春夏号・秋冬号の年2回） H24：注文件数154件、売上額1,482千円 →H25：注文件数269件、売上額2,033千円 →H26：注文件数833件、売上額8,407千円 →H27：注文件数1,884件、売上額12,849千円 （ふるさと納税の記念品への活用による増H26～）
<p>18 香南市の商業振興への取組</p> <p>《香南市》</p> <p>コミュニティガイド事業で作成・配布した「生活情報ガイド」や「コミュニティイベント」の継続により、地域の消費者に対し生活の利便性を提供するとともに、事業者のまとまりを再構築し、事業者が一体となって取り組みを行い、地域内での顧客の増加、さらには地域外への商圏拡大を目指す。</p> <p>《事業実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市商工会 ・香南市内の事業者 	<p>《事業者が一体となった取組の推進》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域振興等地域活性化事業（高知県商工会連合会）を受託 <ul style="list-style-type: none"> H25：1,000千円 ・地域内資金循環等事業開発検討事業（高知県商工会連合会）を受託 <ul style="list-style-type: none"> H26：1,100千円 ・コミュニティイベントの開催（H24、25） ・香南市とのポイントカードシステムのポイントについての協議（H26、H27） ・香南市地域活性化委員会の委員に工業部会員を新たに追加（H27～） 	<p>《事業者が一体となった取組の推進》</p> <p>《H25》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域事業者・自治体連携ポイントカード」の新事業立ち上げを目指し、「香南市地域活性化委員会」を設立（H25～27）。 ・広域振興等地域活性化事業（調査・研究）報告書の取りまとめ ・ポイントカード事業にかかるアンケート（消費者及び商店対象）実施 <ul style="list-style-type: none"> 事業者向け 回答数107（対象事業所350） 消費者向け 回収数229（配布数：香南市全世帯11,000部、店舗等4,000部） <p>⇒香南市全体に普及可能な新たな商業振興策の方向を提示することができた。</p> <p>《H26》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポイントカード・クレジットカードにかかる事業者アンケートの実施 ・事業者に対するアンケート 回答数169 <p>⇒ポイントカード・クレジット決済事業を導入する方向で進めていくこととした。</p>
<p>19 地場産業（土佐打刃物、フラフ）の振興</p> <p>《香美市》</p> <p>海外での展開も視野に入れた新商品の開発や販路の開拓のほか、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組む。</p> <p>《事業主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県土佐刃物連合協同組合 ・香美市商工会 ・フラフ製造業者 ・香美市観光協会 	<p>《土佐打刃物・フラフの普及及び新たな販路開拓》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商工業振興対策事業 <ul style="list-style-type: none"> H24：470千円 H25：600千円 H26：600千円 H27：600千円 ・観光協会運営補助 <ul style="list-style-type: none"> H24：11,000千円 H25：11,000千円 H26：11,000千円 H27：11,000千円 <p>《次世代を担う人材の育成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後継者育成事業 <ul style="list-style-type: none"> H24：600千円 H27：2,700千円 	<p>《土佐打刃物・フラフの普及及び新たな販路開拓》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年を通して、学校の授業や観光イベントの機会を利用し、打刃物鍛造体験やフラフ染め体験を行った。 ⇒体験観光プログラムの実績増につなげることができたとともに、地場産業への理解を深めることができた。 ・観光協会ホームページでの情報発信により、追加注文も合わせて、ナイフ330本（H26）670本（H27）を販売した。 ⇒海外への販路が開拓され、定着しつつある。 ・くじらナイフが経済産業省「The Wonder 500」に認定された。 <p>《次世代を担う人材の育成》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修生の受け入れ 1名（H27.4月～）

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
参加事業者数 35事業者 (H23：29事業 者)	(H27年度末実績) 37事業者	A+	<p>ギフトカタログの発行を年2回に増やしたこ とや、ふるさと納税の記念品にギフトカタログ が活用されたことなどにより、売り上げも増加 傾向にあり、参加事業者数が増加した。</p> <p><課題> ・自立した組織体制の構築に向けたネット販売 の強化 ・リピーターの増加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にわかりやすくかつ魅力 的なサイトの整備 ・参加事業者数の増加と組織の体 制強化 ・「ふるさと応援寄附金」記念品 用のサイトの新設
商業者数 現状維持 (H23：873店)	(H27年度末実績) 842店	B	<p>H25から、幅広い年齢層の市民が活用できる ポイントカードの導入について、先進地視察を 行ったり、専門家の意見を聞くなどし検討を重ね、地域の規模や目的に見合ったカードの導入 を決定した。</p> <p>現在、より魅力あるカードにするために行政 との連携も検討中で、減少傾向にある商業者数 に歯止めをかけるべく、引き続きカード事業の 取組を進めていく。</p> <p><課題> ・商業者の高齢化による廃業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポイントカード・クレジット決 済等事業を推進し、地域内消費を 増やす仕組みを構築することによ り、新たな商業者の確保
刃物製造業者数 現状維持 (H23：36事業 者)	(H27年度末実績) 34事業者	B	<p>H25.1月に県中小企業団体中央会から報告さ れた「土佐打刃物製造業の後継者育成に向けた モデルプラン」によれば、H16年度時点で、県 内37事業者のうち事業主の年齢が60代を超え る方が全体の8割近くを占め（中でも70代以上 は3割）、後継者が決まっている方は全体の3 割弱となっている。</p> <p>市場動向は厳しく、新規雇用どころか廃業も いたしかたないと思える方の比率も高く、廃業 が続く中、新規に後継者育成事業を活用し、研 修生の受け入れができたことは大きな前進であ る。</p> <p><課題> ・職人として独り立ちするためには、研修終了 後の働き場の確保や経営支援等の支援策が必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムの実施や、PR 広報による地場産業・伝統産業へ の理解促進 ・後継者の確保に向けた後継者育 成事業のPR

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>20 土佐山田えびす商店街を中心とする地域の活性化</p> <p>《香美市》</p> <p>利用可能な空き店舗の改修や商店街と地域住民、移住者等の情報交流拠点施設の整備を行うことなどにより、移住者による新規創業も含めた新たな店舗の開業を支援するとともに、商店街を含む地域の活性化を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市商工会 ・えびす街協同組合 ・地域活動団体 ・香美市 	<p>＜えびす商店街を含む地域の活性化策の推進及び情報交流拠点の整備等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップの整備補助 H27：7,372千円 	<p>＜えびす商店街を含む地域の活性化策の推進及び情報交流拠点の整備等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふらっと中町チャレンジショップ（1店舗）がオープン（H27.9月） ⇒昨年度末で休止していた「ふらっと中町」が店舗再開し、イベント開催等で認知度向上を図ったことにより、商店街内の方の利用も増え、賑わいが戻りつつある。
<p>21 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～</p> <p>《南国市》</p> <p>交通の要衝という恵まれた立地環境を活かし、地域内の観光資源をつなぎ、地域が誇る史跡資源（長宗我部）や農業などの地域資源を活かして観光を産業として成り立たせる仕組みを構築していく。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光協会 ・市内各観光に関わる企業・団体・グループ 	<p>＜観光協会の組織強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金 H24～25：3名 ・南国市観光協会補助金（市単） H24～27：計19,572千円 <p>＜本市ならではの体験型観光の推進と本市に人が訪れてお金を落としてくれる仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント運営の補助 岡豊山さくらまつり・土佐の食1GP補助金 H24～27：計 市7,400千円 長宗我部フェス補助金 H24～27：計 市4,000千円 ・観光拠点の整備 県観光拠点等整備事業費補助金 H24：計1,349千円 （レンタサイクル、ガイドブック） H25：106千円（長宗我部フェス等） H26：1,600千円（ドライミスト） H27：3,000千円 （長宗我部元親飛翔之像） 県国際観光受入環境整備事業費補助金 H27：1,038千円（Wi-Fi設備） ・観光資源の磨きあげ 観光アドバイザー派遣 H25：1回 	<p>＜観光協会の組織強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会の一般社団法人化（H25） ⇒運営体制が強化された。 <p>＜本市ならではの体験型観光の推進と本市に人が訪れてお金を落としてくれる仕組みづくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡豊山さくらまつり・土佐の食1GPを継続して開催することにより集客力のあるイベントとして定着（H24～27） ⇒来場者数 H27：1万5千人

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
新規店舗の開業数 1店舗以上	(H27年度末実績) 0店舗	B	<p>空き店舗対策として、チャレンジショップを開設（H27年9月）し運営を行っている。チャレンジショップ運営員と香美市が雇用する地域づくり支援員と一緒に、ふらっと中町への集客イベント等を企画実施し、チャレンジャー募集のPRを行うとともに、商店街の賑わいを作りだすための体制づくりができた。</p> <p><課題> ・チャレンジショップのチャレンジャーの獲得と商店街の賑わいの創出 ・空き店舗に関する情報整理及び情報発信</p>	<p>・チャレンジショップや商店街の活性化に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、チャレンジャーの獲得、商店街の活性化に向けた企画提案・実行 ・空き店舗調査及び空き店舗所有者の意向調査 ・NPO法人「いなかみ」との移住希望者に関する情報共有、創業希望者へのアプローチ</p>
観光協会の会員数 150 (H23：77)	(H27年度末実績) 77	A-	<p>土佐の食1GPIは、継続的な実施とPR活動により、集客力のあるイベントとして定着しつつある。また、ボランティアガイド組織の設立により観光商品の開発やブラッシュアップが進み、観光拠点の整備により観光客の受入れ体制が強化された。</p> <p><課題> ・観光協会の体制強化（会員の増加による財政基盤の強化）</p>	<p>・観光協会の入会メリットを示した実効性ある入会勧誘の実施 ・観光コンテンツの創出及び磨きあげ</p>
一般社団法人数（観 光協会の法人化） 1組織	(H27年度末実績) 1組織	A+		
主要4観光施設※の 入り込み数 500,000人 (H21：483,000 人)	(H27年度末実績) 559,240人	A+		
※県立歴史民俗資料 館、西島園芸団地、 パシフィックゴルフ (以上、来場者)、 道の駅南国風良里 (ショップ、直販所 のレジ通過人数)				

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>22 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の海と山と文化や歴史などの地域資源を活用した体験観光等を推進し、交流人口の増大を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光協会 ・香南市 ・歌舞伎でまちおこし実行委員会 ・地域の体験メニュー等提供団体 	<p>＜旅行商品の造成と販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域まるごと旅行商品の開発販売及びランドオペレーター機能構築事業 県産業振興推進ふるさと雇用事業 H24～26：1名雇用 香南市産業振興推進ふるさと雇用事業（市単） H27：1名雇用 ・とさ旅セミナーへの参加（H24、H25） ・土佐の観光創生塾への参加（H27） ・高知県観光プラットフォームづくり勉強会への参加（H27） <p>＜地域の観光情報の発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション活動 H24：関西、中国、四国地区 H25：中部、関西、中国、四国地区 H26：中部、福岡地区 H27：関東、中国、関西地区 <p>＜歌舞伎を核とした交流の場づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「香南市歌舞伎でまちおこし実行委員会」の設立及び開催（H26～） <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県観光拠点等整備事業費補助金（三宝山） H25：100千円 H26：2,000千円 H27：1,518千円 	<p>＜旅行商品の造成と販売＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画・募集旅行 H24：9コース、310人（募集） 土佐塩の道30kmつおーく、土佐塩の道つおーく（4回）、第1回土佐塩の道トレイルランニングレース、長谷寺坐禅ツアー（2回）、赤岡冬の夏祭りとまち歩き ⇒実施7コース、参加295人 H25：10コース、530人（募集） 土佐史跡めぐり～戦国の香美・香南を訪ねる～ツアー（3回）、土佐塩の道30kmつおーく、土佐塩の道つおーく（3回）、第2回土佐塩の道トレイルランニングレース、長谷寺坐禅ツアー（2回） ⇒実施7コース、参加331人 H26：20コース、450人（募集） 第3回土佐塩の道トレイルランニングレース、長谷寺坐禅ツアー（6回）、サンライズ・サンセットシーカヤックモニターツアー（13回） ⇒実施15コース、参加368人 H27：21コース、590人（募集） 長谷寺坐禅ツアー（7回）、ニラを120%楽しむ体験モニターツアー（2回）、梅雨を楽しむあじさいツアー、第4回土佐塩の道トレイルランニングレース、「B列車で行こう」ツアー、サンセット・シーカヤックツアー（5回）、酒蔵めぐりと赤岡探訪の旅、宅間一之氏と行く 土佐源平史跡めぐり、まちあるきde婚活 謎解きLoveハンター ⇒実施17コース、参加447人 <p>＜地域の観光情報の発信＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エージェントに対するプロモーション活動 年間 H24：3回 70社 H25：2回 31社 H26：2回 37社 H27：3回 41社 ・エージェントプロモーション回数は目標の50%だが、会社数は目標の82%となる41社へのプロモーションを実施（H27） <p>＜歌舞伎を核とした交流の場づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> H26：弁天座年間317日営業（うち利用238日） ⇒年間来館者数13,383人 H27：弁天座年間316日営業（うち利用281日） ⇒年間来館者数13,061人 <p>＜その他（三宝山）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> H25：香南市三宝山夢アイデアコンテスト実施 H26：香南市三宝山観光拠点化基本構想作成 H27：香南市三宝山観光拠点化基本構想磨き上げ

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
年間プロモーション 活動 年6回以上（年のべ 50社以上）	(H27年度末実績) 年3回（年のべ41 社）	A	旅行商品については新商品の開発を行い、ま た、継続実施することでフラッシュアップが図 られた。 H26から歌舞伎を核とした交流にも力を入れ ており、H27には大歌舞伎花形役者を招いた公 演を成功させた。また小学生を対象とした出前 授業や市民が参加できるワークショップの開 催、外国人を対象とした体験メニューのモニ ター調査を実施するなど、歌舞伎という地域資 源を活用した取組は広がりを見せてきている。 三宝山の観光拠点化については検討を重ね、 基本構想の作成、磨き上げを行い、今後の基本 計画策定に向けた素地が整った。	・顧客ニーズ、トレンドをふまえた 旅行商品の開発及び既存商品の さらなるフラッシュアップ ・観光協会の人材育成及び体制強 化
主催旅行の開催 10コース・募集 200人以上	(H27年度末実績) 17コース（実施）、 募集590人	A+	<課題> ・地域資源の発掘及び旅行商品のさらなる磨き 上げの推進 ・観光協会の体制強化	
弁天座来館者数 11,000人 (H25：10,000 人)	(H27年度末実績) 13,061人	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>23 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進</p> <p>《香美市》</p> <p>べん峡温泉を「森の駅」と位置づけ、体験型観光の拠点施設として森林を活用した観光を推進する。また、体験プログラムの実施による地域住民との交流や地域の活性化につながる香美市の新たな産業としての観光の育成を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・（一社）香美市観光協会 ・地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体 	<p>＜体験型観光プログラムの確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラム受入団体への助成（市） <ul style="list-style-type: none"> H24：200千円 H25：150千円 H26：150千円 H27：150千円 ・高知県観光拠点等整備事業費補助金 <ul style="list-style-type: none"> H24：735千円（別府峡イベント広場整備） H25：2,000千円（龍河洞照明整備） <p>＜情報発信の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会運営補助 <ul style="list-style-type: none"> H24：11,000千円 H25：11,000千円 H26：11,000千円 H27：13,200千円 ・H26 龍河洞のインバウンド環境整備（案内多言語アプリの開発） 	<p>＜体験型観光プログラムの確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して実施される既存の各種イベントや体験プログラムの企画・運営を通して、観光資源の磨き上げを行うとともに、新規イベント「香美バル」（H26.10月、H27.10月）を実施した。 ⇒観光協会及び実施団体の体制強化を図ることができた。 <p>＜情報発信の強化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSでの発信を充実させるとともに、会員向けの情報誌や季節ごとのパンフレット等の発行を行った。（H24～27） ⇒香美市観光情報のPRを行うことができた。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
体験プログラム数 20プログラム (H23：13プロ グラム)	(H27年度末実績) 22プログラム	A+	<p>交流人口の拡大に向けて、新規イベントの開催や体験プログラムの造成に取り組んでいる。体験プログラムについては、年々、増加しており、既存のプログラムを継続実施することで、磨き上げも行われた。</p> <p>また、受入人数についても、実績が目標数値を大きく上回ることとなった。</p> <p><課題> ・体験プログラムの受入体制及び観光協会の体制の強化</p>	<p>・体験プログラム等の実施団体と連携を図り、イベントやツアーの定期的な開催に向けた支援による、体験型観光の活性化</p> <p>・観光協会職員や地域の受入団体のメンバーの観光創生塾への参加による既存メニューの磨き上げ、人材育成及び体制強化</p>
体験プログラム受け入れ人数 500人 (H23：-人)	(H27年度末実績) 4,433人	A+		

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>24 広域観光の取組の推進</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>高知中央広域定住自立圏共生ビジョンの観光事業において、物部川地域の自然、観光施設、体験メニュー等の多様な観光資源を広域的に組み合わせ、魅力的な観光商品とするとともに、一体として情報発信を行うことにより、観光客の広域的な誘致を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p><事業主体></p> <p>・高知中央広域観光協議会のうち、南国市、香南市、香美市、(一社)南国市観光協会、(一社)香南市観光協会、(一社)香美市観光協会</p>	<p><観光商品の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・とさ旅セミナーへの参加 H24：11回 H25：7回 ・エリアキャンペーンの実施(H24) 実行委員会への参加(4回) ・エージェント向けモニターツアー実施 H24：5社8名参加 H25：5社5名参加 <p><観光客の広域誘致></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エージェントへのセールス H24：中四国(キャラバン参加) 関西・中四国地区(計29社) H25：中部・関西地区、中四国地区(計37社) H26：中部・福岡地区(計37社) H27：中国・関西地区(計32社) ・パンフレット等の作成 H25：広域観光パンフレット(2万部) H26：広域観光パンフレット増刷(GW用1万部)及び改訂版作製ポスター(B1サイズ：200部、B2サイズ：400部)体験パンフレット(1万部) H27：広域観光パンフレット増刷(5万部) 外国語パンフレット(英語版)作成(14万部) ・観光・物産展の開催 H25～27各1回 <p><組織体制の充実・整備>(H24)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部川地域観光振興協議会 会議開催：6回 高知県観光拠点等整備事業費補助金：1,059千円 南国市、香南市、香美市負担金：1,800千円 (H25～) ・高知中央広域観光協議会 設立総会(H25)、総会(H26・27) 実務担当者会 H25：9回 H26：10回 H27：9回 高知県広域観光推進事業費補助金 H25：2,000千円 H26：3,000千円 H27：3,000千円 	<p><観光商品の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ・とさ旅セミナーへの参加を通じて、物部川地域の旅行プランを企画し、セールスを行った。(H24・25) ・エリアキャンペーンの実施により、3館セット券など新たな観光商品を造成した。(H24) ・エージェント向けモニターツアー実施(H24・25) ⇒地域の観光資源等について、旅行会社の意見を聞き、協議会全体で共有することにより、観光商品の造能力が強化した。 <p><観光客の広域誘致></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エージェントへのセールス・プロモーションの実施(H24～27) ⇒圏域としての体験型観光のPRやセールスを行うことにより、訴求力を高めることができた。また、エージェントのニーズを協議会全体で共有することで、より魅力ある商品づくりに向けた理解が深まった。 ・周遊コースの提案型パンフレットの作成などを通じ、広域的視点に立った取り組みが進んでいる。(H25～27) ・外国人観光客向けパンフレットを作成するなど、インバウンドに対応した動きも出てきている。 ・「高知まんなか観光物産展」の開催により、圏域のPRを行うことができた。(H25～27) ⇒観光客入り込み数： H25 63.2万人、H26 60.2万人 H27 72万人 <p><組織体制の充実・整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部川地域観光振興協議会での活動を経て、高知中央広域観光協議会が設立(H25 構成：高知市・南国市・香美市・香南市、各観光協会) ⇒高知県中央広域定住自立圏構想のもと4市(高知市及び物部川地域を構成する3市)による取り組みがスタートし、広域観光を推進する体制がより充実した。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
観光客入り込み数 80万人 (H21：72.1万人 H22：78.1万人) (内訳) 主要観光施設訪問者 数 (H21：67.5万人 H22：73万人) 体験メニュー受け入 れ人数 (H21：4.6万人 H22：5.1万人)	(H27年度末実績) 72万人 (内訳) 主要観光施設訪問者 数：69.3万人 体験メニュー受け入 れ人数：2.7万人	B	<p>広域観光組織の設立により、各市及び観光協会の連携による広域観光の推進に向けた体制が整備された。</p> <p>体験観光施設においては、H26年度は夏の長雨や数回にわたる台風の影響により、客足が鈍ったことと、施設によっては被害を受けた所もあったが、H27年度は主要観光施設のほとんどが昨年度の入込実績を上回り、また、H24.3月から休館中だった施設がリニューアルオープンしたこともあり、目標値には届かなかったものの、入込客数は増加の傾向にある。</p> <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の観光資源の発掘や磨き上げにより一層取り組み、更なる誘客を図ることが必要 ・広域観光組織の体制の充実強化に向けた研究・検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での観光実践者の育成や観光資源の発掘・磨き上げの一層の取り組み ・「土佐の観光創生塾」等を通じた、観光事業者などの観光商品造成力の強化 ・広域観光組織の一層の連携による取り組みの推進と、充実強化に向けた研究・検討（観光プラットフォームづくり勉強会等） ・物部川地域における観光活性化に向けた組織づくり

項目名及び事業概要	具体的な取り組み	具体的な成果
<p>25 大学生による地域応援団（サポーター）づくり</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>地域と大学等の学生の交流機会を増やし、相互の理解を深めることにより、物部川地域をサポートする『地域応援団（サポーター）』を作っていく。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と地域の研究所 ・学生グループ 	<p>＜交流機会の創出・交流後のフォローアップ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生グループと地域団体等のマッチング H24 6件 H25 10件 H26 5件 H27 1件 ・結プロジェクト推進事業 H25 75千円 	<p>＜交流機会の創出・交流後のフォローアップ＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流した学生数 H24 63名 H25 164名 H26 353名 H27 345名 <p>⇒県内大学の学生の活動が広がり、地域との交流が深まった</p> <p>⇒継続的に地域での活動を実施している団体は地域住民等との間に信頼関係を構築することができ、地域活動・イベントや交流会の企画段階から参画することで、より頼りとされる存在になりつつある</p>
<p>26 地域産品を活用したヤ・シィパークを核とする地域の活性化</p> <p>《香南市》</p> <p>ヤ・シィパークの新たな魅力となる施設として、香南市産のメロン、ミカン、文旦などを使用した氷菓と焼き菓子類を製造・販売する加工所兼店舗を整備することにより、地域産品の活用促進による生産農家の所得の向上と、交流人口の拡大を図る。</p> <p>＜事業主体＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（株）ヤ・シィ ・香南市 	<p>＜施設整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工所兼店舗の整備に向け県産振補助金交付決定（H27→H28へ繰越、38,360千円） <p>＜販路開拓＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談会の実施（H27） <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ヤ・シィパーク周辺地域活性化事業検討委員会」の開催（H27） 	<p>＜施設整備＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産振補助金交付決定を受け、加工所兼店舗の整備に向けた体制が整った。

目標値に対する実績		総括		今後の方向性
指標及び目標値 (H27年度末)	H27年度末実績	数値目標 に対する 客観的評 価	総括	
交流した学生数 累計100人以上 (H23: 19名 ・高知県立大学2名 ・高知工科大学9名 ・高知大学4名 ・県外大学4名)	(H27年度末実績) 345名 ・高知工科大学262 名 ・高知県立大学73名 ・高知大学10名	A+	地域と学生団体（サークル活動）が良好な関 係を築き、継続的な交流活動が確保されてい る。 H27年度末の交流した学生数は、目標値を大 きく上回って達成している。 マッチングした地域と学生団体は行政を介す ることなく、直接繋がりをもって、地域活動 を行っている。 <課題> ・地域に興味を持つ学生の確保及び活動内容の 的確な把握	・地域住民と学生による地域活動 の継続 (H28.3月 地域AP終了)
—	—	—	入札不調により竣工が当初計画より遅れるこ ととなったものの、H28.7月開業に向け、準備 を進めている。 <課題> ・円滑な開業に向けた商品開発、販路開拓、広 報営業活動等の実施 ・衛生管理に対する従業員の意識の向上	・加工所兼店舗の開業に向け、商 品開発、販路開拓、広報・営業活 動等を並行して実施 ・土佐FBCの受講や、専門家に よる調理・製造、衛生管理、接客 等についての研修による人材育成